



2000年3月のリスボン欧州理事会で、欧州連合は、「今後10年間、2010年までに、世界で最も競争力のあるダイナミックなナレッジ経済圏を形成し、持続可能な経済成長と、それによる雇用の創出、より強い社会的結束を実現させる」という欧州の10ヵ年戦

略目標を設定した。これがいわゆる、リスボン戦略、リスボン目標と言われる欧州のプログラムである。この背景には、欧州の経済成長率伸び悩んでいること、欧州が米国やアジアの経済力に脅威を感じていることが挙げられる。下図は欧、米、日の特許数比較である。技術競争力のひとつの尺度であるが、欧州諸国は米国や日本に遅れをとっている。右は具体的なプログラムの枠組みである。このリスボン目標の達成状況、現況分析の中間報告が今年の春になされる予定であるが、それに先立って、2004年には、元オランダ首相のWim Kokをリーダーとする選抜チームが編成され、株主の意見を反映するために、実業界にヒヤリングをしている。今後、欧州は結束して競争力強化のための具体的アクションプランを実施する予定である。

	EPO 申請数	EPO ハイテク 申請数	USPTO 認可数	USPTO ハイテク 申請数	ICT支出 対GDP%
EU15カ国	161.1	31.6	80.1	12.4	7.0
UK	133.5	35.6	77.2	15.1	8.6
フランス	145.3	30.3	76.5	14.0	7.4
ドイツ	309.9	48.8	147.4	16.4	6.9
米国	169.8	57.0	322.5	91.9	8.2
日本	174.7	44.9	265.2	80.0	9.0

*EPO＝英国特許庁、USPTO＝米国特許商標庁、ICT (Information and Communication Technologies)はオフィス・データプロセス機器、ソフトウェア、テレコムサービス等を含む。

*出典：http://trendchart.cordis.lu/scoreboards/scoreboards2003

CIP (Programme for Competitiveness and Innovation) の5つの目標分野

1) Knowledge Society

研究者や科学者にとって魅力のある欧州にする。R&Dを最重要課題とし、ICT(インフォメーション&コミュニケーション・テクノロジー)の活用を促進する。

2) Internal Market

モノと財の自由な動きを可能にする圏内の市場を完成させ、サービス領域での単一市場を形成する計画が迅速に求められる。

3) Business Climate

全体の管理部門の負担を軽減し、規制の質を上げ、起業のプロセスを容易にし、ビジネスにとってより良いサポート体制のある環境づくりを目指す。

4) Labour market

European Employment Taskforce に則って、長年の、そしてアクティブな高齢化に対応した戦略を開発し、成長と雇用との協調を目指す。

5) Environmental Sustainability

エコ革新を推進し、エコ産業でのリーダーシップをとる。またエコ効率の高い生産における長期でのサステナビリティを導く政策づくりを行なう。

CIPの中間評価報告、また個別の目標に即したアクションプランに関してはまた別途レポートします。
このテーマについてご関心のある方は、ご連絡ください。